永寿百人一首

五節句祝ひ
正月七日
乃節句
行て見れば
人もまのべと
遊
ひるの
月
紀貫之
永壽房人間再校
三月三日
上巳
桃の花
三月
なるとの
りの
花ちる
あるじは
元河内雅垣

五月五日
端午
七月七日
七夕
天の川

九月九日
菊の花
我屋戸の
きくの露
いつまでつもりて
淵となるらん
中務
琴の上の月
天稚天皇
秋の田の
かりほの
苫屋
露

持統天皇

柿本人麿

山邊赤人
田子の浦よ
うち出でて
見れば
白妙の
富士の高根に
雪は降りつ

猿丸大夫
奥山に
紅葉踏
分け
鳴く
鹿の
声聞く時
秋は悲しき

中納言家持
安倍仲麿

素性法師
我庵は
都のたつみ
しかぞすむ
世をうぢやまと
人はいふなり
小野小町
花の色は
うつりにけり
いたづらに
わが身よに
ふるながめ
せしまに

蟬丸
逢坂乃関
森議員
和田芳原
十寸
人はいざ
海士乃釣舟

僧正遍昭

天つ風雲の
かよひ路
吹とじよ
乙女の
すがた
しばしとどめん

陽成院

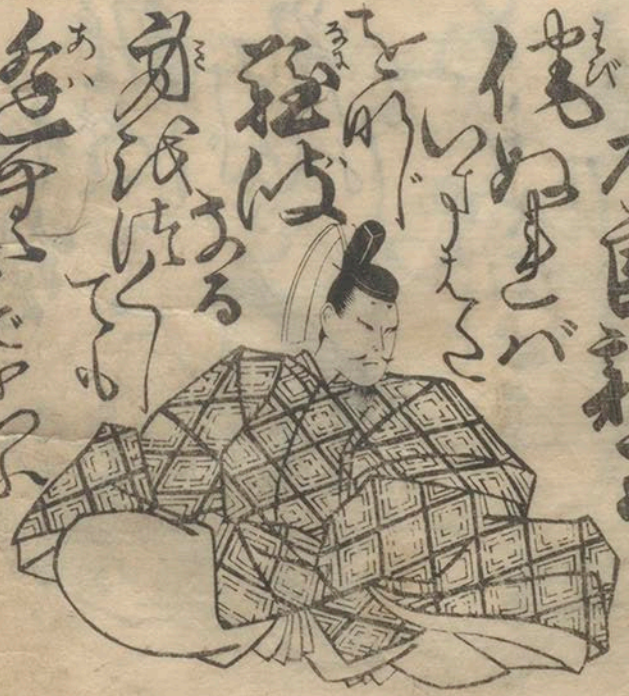
筑波根の
峯より
落る
みなの川
恋ぞつもりて
淵となりぬる

可平尤大臣
陸奥
雄ゆ
光孝天皇
君ゴ
いで
若菜摘
雪の

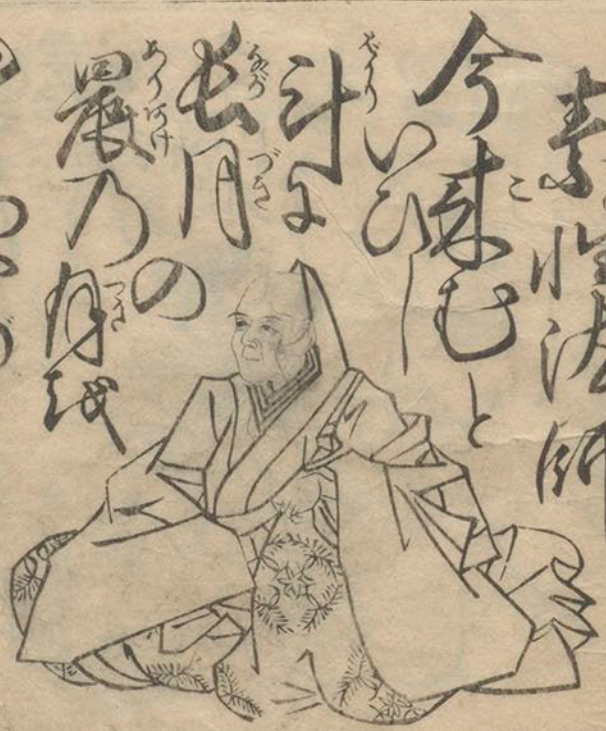
中納言行平
立つらん
稲葉の
山乃
みねに
やまとなる
今帰らぬ
在原業平朝臣
ちはやふる
神代も
きかず
龍田
川
からくれなゐに
水くくるとは

藤原のあきあつ朝臣
伊勢物語
みがさ
ふるのあそびをぞしける

元亨祝言



赤性法師

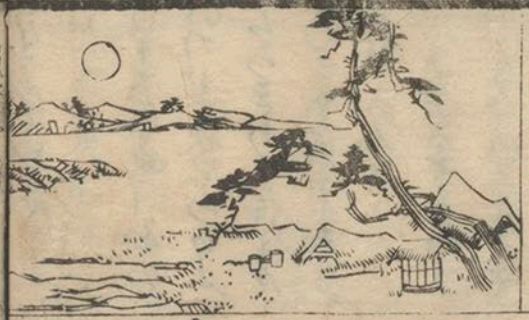


文屋康秀
吹からに
秋の草木の
しをれむ
むべ山風を
あらしといふらむ
大江千里
月見れば
ちぢにものこそ
かなしけれ
我ひとりのみ
秋にはあらねど

菅家
三陳右大臣
名所
逢坂山の
さくら
人よりづつ
来ぶ
ぶ

真信公
小倉山
みぶの
忠岑
おもふだ
あらしの
人麻呂
ひとまろ
中納言兼輔
兼輔
さくら
流る
泉川
月見
忠見
かるかも

あだやうしにやれ
ゆふぐれとなるぬれた
身れかどぞ
れーさ



源宗于朝臣

山里は
冬こそ
淋さ
まさりけれ
人めも草も
かれぬと思へば

○こゝに秋やまれこん
月今まこゝにそなた
ちろやちさとのやう
の人まてもさやや
なぶめあこん
○こゝこゝに月さえ
ろまの言のさこ
ゆゝ人でうあり
れおを兵衛尉と
言れ人
ぽまま乃曲
○まゝ人梅ぽうゞひと
てゞやゞり心ゞさ

凡河内躬恒

人あてふ
ものをたら
初雪の
ふりにやぶる
古菊せる

春道列樹

山川風

かもやり

紀友則

藤原興風

紀貫之

養うつなひ

▲ゆめ[illegible]

▲天ふあぐ[illegible]

▲方乃花[illegible]

▲運花[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

富貴は動る▲早わ
ゆるしこれはこれのつくさるる▲貴の
こゝろのかたこれべ
ゆるしたるとうとうたる
▲慶やこゝろと見
見はわこゝろ
家をりふる
▲をこの家あること
神神をこんこんとこゝろ
つくさるる▲仏神
をこんこんとこゝろ
吉の色個秘密

▲仏とあるひと見
見はこゝろ君のあて
神こゝろかゝる
▲神神を拝ゆく
わるひこゝろ見神ば
病事あるこゝ

▲神乃やうなと和むとゝれば福壽を見れば富貴なり ▲多居
▲濁りなくとゝれば方人の行くゝ見れば方人の行くゝ
▲地震のゆるとゝれば世間騒がしくゝ見れば世間騒がしくゝ
▲大雪のゝとゝれば家毛乃雨ゝ
▲風ゝとゝれば秋をふきまくゝとゝれば百の
▲雷のとゝれば家毛乃雨ゝ

平兼盛

恋すてふ
わが名はまだき
立ちぬべし
人しれずこそ
思ひそめしか

▲雨ゝとゝれば世間騒がしくゝ見れば世間騒がしくゝ
▲家毛乃雨ゝ
▲雪のとゝれば家毛乃雨ゝ
▲雷のとゝれば家毛乃雨ゝ
▲山のとゝれば方人の行くゝ
▲風のとゝれば方人の行くゝ
▲山のとゝれば方人の行くゝ

壬生忠見

恋すてふ
わが名はまだき
立ちぬべし
人しれずこそ
思ひそめしか

清原元輔
中納言敦忠

中納言源忠
あつこれ
絵てー
みくハ
中りくふ
人ちとこ
恨こざらん
藤徳公
義とあいふ
ぬこさんば
ゆこえ
男ていこよ
妹ぬべこさ

▲夫婦のうたつれ
汐と見れば大方ゆ
んのふけ▲女房夫よ
ばかりふかしと見て
ふうふのえんつきぞ
打るこゝろ
▲まことの恋のつゝくれば
爭ひのゆゑ
▲天出物はまつ〻
見て
▲神たのみ
あり病ゆゑ
▲ふの人
病身あり▲
ふくとゝれば
▲大石
人毋
▲
中一夏人
七四

源重之

源義経
命さへ
なぐるつふ
思ひまるつふ
薩摩三郎坊
ふくとぞふ
伊勢えび
さめ
ゆたてわりひ城

倭国三司の
大酒公任

あさぢふの
この世をぬけて
あはんとは
今をぎりの
ひとのこころに

崇徳院
瀬をはやみ
岩にせかるる
滝川の
われても末に
あはむとぞ思ふ

大武三位
有馬山
佐々
毎年
風ふけば
いぐ
ひとを
ゆすぎやるなる
赤染衛門
夜すら
寝かつ
小夜更て
ゆくまで
月はうら

中百人
三十一

清め網を
新地よりの
鶴乃
そ
音ハ
そらるも
ふ
逢
関ちゆふじさ
あま乃川
あま乃
の川
河瀬
あま乃
風を
あま乃川
あま乃
の風
月
かさ
きのくーく
天
なひ
秋乃
中秋
風
秋
いくれ乃
秋乃
人
あさ
あ
古来大史道祖
今ハたゞ
思ひ
あ
ばつ
星を
ぼて
ぼて
いつ

あさゆふ
世ごのつる
あさ雪
むかしまこと丸を
男ゆつ
後めさ
風ふき
秋ち
花ふり
春の
高人なり
国ぶり
春の
夏夜の
手枕
ひたく
名ぶそ

三條流
紙問法師
嵐三郎

医遥法師
淋
病
を
出て
涙もまばゝ
いとしてもあはれ
妹の夕暮
大納言經信
夕ざれゝ
四の
橋
壹づれく
ものもろやふ
秋ろ塚おぐろ

書てきて
あぐるの涙
かけじや袖の
ぬまもなくまれ
祐子内親王家紀伊
藤中納言匡房
高砂の
尾上の
さくら
咲ぬ
外山の霞
立ぬ
あすは
あるらん

源俊賀朝臣
夏ゝうける
秋の人を
山おろし
たゝげしうまとゝも
いのゝぬるの城
菊原基俊
朝をたゝ
さゝせりゞ
夏を
命
みゝく
あゝれこゝ
蛙といぬめる

中百人
清水寺
和泉式部
清少納言
久安の
くらと平
沖津
なみ
宗徳院
源頼朝
滝川の
頼朝

男女相性

▲男木女金
始めは淺黄色の二人
世人のもの苦勞みを

▲男木女木
[illegible]

後京極摂政

なげかじとこれぞこの
思ひまつ
うらみわびぬれぬ
今を盛り

子二人の人の
[illegible]
個一つの負なり

▲男木女土
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲男木女火 大吉
[illegible]

▲男木女水 大吉
[illegible]

後恵法師

夜もすがら
[illegible]
あけやすで
閨の秋
[illegible]

富士延命なり氏
神成位にまれバでん
さまを多んあ

▲男女女人　こうこ
子供あ孫ども　五里
くひんなり

西行法師

なげかくも
月やハ物
おもハさる
かこちかほ
我ごろもみ

▲男女女土　大吉
子三人ハ八人あり
富士長命之荒神
をまつるべいよ

▲男女女木　吉
子二人ハ七人あり
たのふかなひ富士

▲男女女金　大凶
子二人ハ三人衣食たり
中ぐり死なり

▲男女女水　大凶
子ハ一ことあるとも
短命之衣食たり

親鸞法師

むつ
ぬ
ぬ
ぬ

中ガリ　くるつまえ
えんど

▲男土女土　生方
始め為く　為ふう
為ふ二人の先　何方も
んふうなつぼちう
なく　病ひ多ー

▲男土女金　大吉
為ふ二人のてんえふ
付て　ほかたうく
かまどう非をまうる
為ー　万事心のきえ

▲男土女木　大凶

荒神

▲男土女火　大吉
為ふ二人の長食

殿冨つ流大南
見をくやる
ゑ
ど
ゆ
の
蛍
ゆ
ぬ
ぬ
ぬ

▲男金女ゑ　大吉
子ゑ人ゑ福ぶんあり
田畠多く命長

▲男金女火　大凶
子二人あり親とそ縁命
なりこれにひんなり

▲男金女土　大吉
子ゑ人ゑ五人ゑ長食
とこにたくさんて下人
多くぶんりにえんゑ
も命なり

▲男女水ゑ　中吉
子ゑ人ゑ命ぶり繁ゑん

二條院讃岐

涙袖

恋ひわ
ひとの
人ゑ
かくれ

海倉相大臣

世の中は
うきもの
法さく
海士の
小舟の
綱手
かな

▲男ゑ女木　大吉
子七人ゑ二人有徳
但ゑのもとにて長命乃
ゆゑゑゑまりてはいつゑくゑんきなり

▲男子金人　大吉
よ二人ゐてやうりの中
に鉄ひとつ三手人
いろるぞ
▲男子安去　大吉
よ中あれどもやがて
さかりくろがらろよ
うなるぞ
▲男水女金　大吉
よ七人ゐ有縁にして
も陽気うちに何ゆも
くるなくいろんぞ下人
あるものぞ

泰盛雅望
三芳野
煙風の
小夜人
ぬけて
かなさもく
さかもを持なり

万おかさ乃図

屋斗めつ
板のりのつ

茄大僧正図
おほまめ
ひとせの
民ふ
おちふ
つぶりの松
丁子波
よ神

真乃の一
わびさびの
あふぎ形の包
菖蒲花つゝみ
木の花つゝみ
おびつゝ
中のおび
巻づゝ
今様大臣
花さかり
庭の
雪
なつ
ぬりゆく
ぬりのい
ふ
権中納言定家
来ぬ人を
まつ
浦
の
夕なぎ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ

ゆかひぶくろ
ちきり
えんぎ
ねぢひふくさ
すき ふね
こーゆのこ
袴 紐どやう
雅屋 れ
方
れうりや 雅
四三位家淫
風てなぐ
小小ちいの
ゆかせ
古稀も
紙ぶ 夏乃
志はり
味けつ
後鳥羽院
人と猫
ひとり
ひとりぐらし
世話ごつ
抱ありふ 為も

140626

御家流女今川　蓮池堂書　大本一冊

婦人手紙之文言　除泉堂書　中本一冊

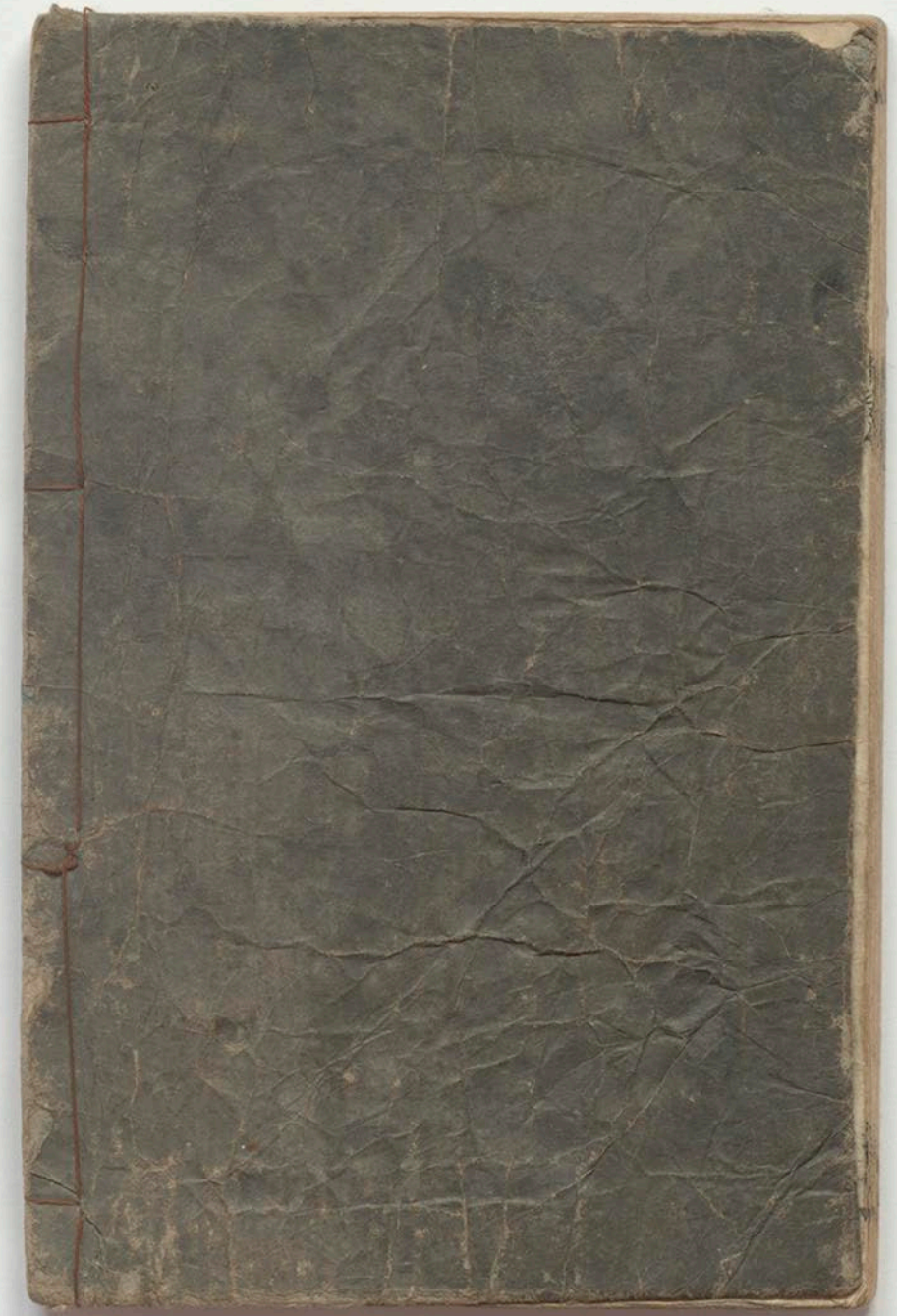
壽百人一首　操鏡　女用文章　女手習帖入　中本一冊

女寶語教　中本一冊

大和魂大成　地獄洗所入　小本一冊

文政九年酉戌孟陬改刻
江戸馬喰町弐丁目
永寿堂　西村屋與八
書林

85801

御家流女今川	蓮池堂書	大本一冊
婦人手紙之文言	陳泉堂書	中本一冊
寿百人一首操鏡	如月文堂 女手習状入	中本一冊
女賢語教		中本一冊
大和魂大成	地図売所へ	小本一冊

文政九年酉戌孟陬改刻
江戸馬喰町弐丁目
書林 西村屋與八